

令和7年度 浦和区自治会連合会 会長講習会 報告書

1 日時 令和7年6月24日（火） 午前10時から11時30分まで

2 場所 浦和コミュニティセンター 9階 第15集会室

3 出席者

藤枝会長・秦野副会長・石井副会長 他会長49名で計52名の出席であった。

4 会長講習会の概要（詳細については講習会資料参照のこと）

（1） 司会の石井副会長が開会を宣言した。

（2） 会長あいさつ

藤枝陽子会長から大変お暑い中での出席の御礼、また最近は様々な地域で災害が発生しているので、勉強し知識と備えが必要であること、そして地域のことは地域の人で住みよい街づくりをしていまいしょうとの挨拶があった。

（3） 本日の講習会のテーマは3部構成で行うこととした。

1部は前地自治会長及び浦和区防災アドバイザー協議会最高顧問の佐々木弘会長より「AIを活用した自治会作業の省力化・合理化等について」

2部は災害に強いまちづくりアドバイザーの専門家である北嶋好之先生に「地震災害知識と理解の再点検について」

3部は浦和区防災アドバイザー協議会の江崎会長より「避難所運営に係る自治会の役割について」の講座を行った。

1部 「簡単AIを活用した自治会作業の省力化・合理化の実践訓練」

- ・始めに、佐々木会長より自治会加入率について、浦和区は70%だが、他区は50%程度であり、浦和区も今後加入率は下がるであろうし、他区では50%を割ってくる可能性があり、自治会そのものが存続できなくなるのではないかという話があった。
- ・また、自治会の仕事も行政からの依頼を含め年々増加傾向であり、その状況を打開するため、また仕事を軽減できるようAIを活用した省力化について説明があった。
- ・実際にパワーポイントを用いて、いろいろな質問をすると即座に回答が出てくるところのデモンストレーションを行った。
- ・使用しているアプリの名称は何か？との質問があり、文章生成・会話型AIの無料のアプリはCopilot、Gemini等があるとの説明があった。

2 部 「地震災害知識と理解の再点検の解説」

- ・北嶋先生より、防災資料を基に説明があった。
まず、地震について、浦和の台地は地震に強い地盤と言われてきたが、大宮台地地下にも軟弱層があることが判明したとの説明があった。
- ・木造住宅の耐震性について、また室内の耐震化の進捗について説明があった。
- ・また、近年は敷地の細分化が進んでおり、狭小住宅は大変危険であること、特に阪神淡路大震災では 100 ㎡未満の地区は大規模な延焼が起きていることの説明があった。
これを防ぐには、敷地面積の確保、地区計画による誘導・規制が必要であること、加えて耐震化、避難経路の確保、避難設備設置等の総合的対策が減災に繋がるということであった。
- ・また、大規模火災延焼時の避難及び救助・救出の時間について、要配慮者の避難所について、区域や市域を超えた避難計画の準備についての説明があった。

3 部 「避難所運営に係る自治会の役割及び地区防災計画策定に係る支援について」

- ・浦和区防災アドバイザー協議会の江崎会長より、防災・避難所関連資料として、さいたま市では避難所運営マニュアル・災害時要配慮者支援マニュアル・災害医療体制、区では避難行動要支援者の避難計画、県では埼玉県ミナ防災等資料の紹介があった。
- ・避難所においては、要配慮者の状態を判断の目安としてスクリーニング・トリアージを行い、それにより避難者受け入れの部屋割り等を判断する必要があるとの説明があった。
- ・判断の目安としては、避難所での対応が困難な方は病院へ搬送待機、要配慮者等は福祉避難所への搬送待機、または要配慮者優先避難所、避難所においては要配慮者優先スペースへの誘導、そして自立できる方は避難所の居室への誘導等を判断しなければならないとの説明があった。

5 閉会

秦野副会長が閉会の挨拶を行った。

令和 7 年 7 月 7 日 浦和区自治会連合会 副会長 石井桂太郎